

オーストラリア タスマニア産のリンゴが台湾市場へ

[FreshPlaza](#) 2024年8月22日

先週、タスマニア州産の「タイガーふじリンゴ」の2つ目のコンテナが台北に到着した。リンゴは地元の小売店を通じて販売される。これは、生産者であるスコットブラザーズ社及びピナクルファインフーズ社と、よく知られた果実輸出業者であるハンセンオーチャーズ社の共同事業の一環である。

タスマニア州果実生産者協会 (Fruit Growers Tasmania) のピーター・コーニッシュCEOは、「現在、リンゴのビジネスは非常に困難であるが、タスマニア州の果実生産者達はいつものように彼らの創意工夫と根気強さを活かして、新しい販売経路を引き続き見つけ出していく」と述べた。

タイガーふじは、スコットブラザーズ社が所有するブランドで、これまでにタスマニア州で約10年間栽培されている優れた生食用リンゴである。この品種はタスマニア州の涼しい温帯気候でよく育ち、果実が樹上に長く留まるため、風味、サイズ、着色を十分に高めることができる。温帯気候のため、タスマニア州産のリンゴは特に保存性が高く、輸出に最適である。

スコットブラザーズ社とピナクルファインフーズ社は今シーズン、高品質で大玉の果実を十分に確保するため、台湾市場に輸出するリンゴを共同で供給することとした。最初のコンテナは7月にヒューオンバレー地区のスコットブラザーズ社の農場から輸出され、2番目のコンテナはテイマーバレー地区のピナクルファインフーズ社の農場から輸出された。

台湾の中秋節商戦の一環としてタイガーふじリンゴを発売するために、ハンセンオーチャーズ社は店舗内での販売キャンペーンを手配した。販促活動として、リンゴの陳列、店内での試食、地元のインフルエンサーによるソーシャルメディアへの投稿等を行う。

タスマニア州果実生産者協会は、オーストラリア園芸革新機構 (Hort Innovation) が運営するリンゴの国際共同プロモーション事業からの助成を受けて、追加の販促支援を提供した。

2つ目のコンテナの到着に合わせて、スコットブラザーズ社のアンドリュー・スコット氏が台北の複数の小売店を訪れ、小売業者や消費者とこのリンゴについて話し合った。

コーニッシュ氏は、「我々のリンゴには大きな関心が寄せられており、他のリンゴと比較して、我々のリンゴがどれほど優れているかに満足している。我々のリンゴは見た目も味も新鮮で、歯ごたえも良い」としつつ、「台湾市場で成功を収めるための唯一の障壁は、オーストラリア産のリンゴに対する20%の輸入関税だと思う。これはニュージーランドなど多くの競合国が直面していない問題であり、コスト面で大変不利である」と述べた。

台湾は毎年約13万5千トンのリンゴを輸入している。これらは主に米国、ニュージーランド、チリ、日本から輸入されている。タスマニア州は、害虫がいない地域とされているため台湾への輸出アクセスがあり、これは植物検疫上の処理を行う必要がないということである。

コーニッシュ氏は最後に、「これは生産者の協力の素晴らしい例であり、常に販路を広げているこれらの生産者に敬意を表す。業界団体として、タスマニア州産の果実とその優れた品質と味を宣伝することにより、彼らの取り組みを支援し続ける」と述べた。

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)